

食品安全委員会の1月の運営について

1. 食品安全委員会の開催

第315回 1月7日(木)

(1) 食品健康影響評価の要請

- 以下の案件についてリスク管理機関から説明

農薬(2品目)	アセキノシル、インダノファン
農薬及び動物用医薬品(1品目)	イソプロチオラン
遺伝子組換え食品等(2品目)	<i>Aspergillus oryzae</i> MT 2 1 8 1 株を利用して生産されたキシラナーゼ、除草剤グリホサート耐性ワタGHB 6 1 4 系統と除草剤グルホシネート耐性ワタL L C o t t o n 2 5 系統を掛け合わせた品種

(2) 各専門調査会における審議結果についての報告

- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

添加物専門調査会(1品目)	トリメチルアミン
---------------	----------

(3) 食品健康影響評価

- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬(2品目)	塩酸ホルメタネート、メトキシフェノジド
遺伝子組換え食品等(1品目)	チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシB t 1 1 系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシM I R 1 6 2 系統とコウチュウ目害虫抵抗性トウモロコシM I R 6 0 4 系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシG A 2 1 系統からなる組合せの全ての掛け合わせ品種(既に安全性評価が終了した4品種を除く。)

(4) 平成21年度食品安全委員会運営計画の実施状況の中間報告等について事務局から報告

(5) 平成22年度食品安全委員会予算案の概要及び機構・定員要求結果の概要について事務局から報告

(6) 食品安全委員会の12月の運営について事務局から報告

(7) 平成22年度食品安全モニターの募集について事務局から説明し、募集の手続を進めることとなった

(8) 昨年7月16日に委員会決定された「企業申請品目に係る食品健康影響評価の標準処理期間について」が本年1月1日から施行されたこと及び食品による窒息事故に関するワーキンググループのメンバーの変更について委員長から報告

第316回 1月14日（木）

- (1) 遺伝子組換え食品等に係る食品健康影響評価に関する資料について厚生労働省から説明
- (2) 各専門調査会における審議結果についての報告
- 各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会 (1品目)	メトミノストロビン
動物用医薬品 専門調査会 (2品目)	クロルスロン、メベンダゾール

- (3) 食品健康影響評価
- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬(1品目)	シエノピラフェン
動物用医薬品 (1品目)	フルベンダゾール

第317回 1月21日（木）

- (1) 食品健康影響評価の要請
- 以下の案件についてリスク管理機関から説明

遺伝子組換え 食品等(1品目)	チョウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシB t 1 1 系統とチョウ目害虫抵抗性トウモロコシM I R 1 6 2 系統とトウモロコシ1 5 0 7 系統と除草剤グリホサート耐性トウモロコシG A 2 1 系統からなる組合せの全ての掛け合わせ品種（既に安全性評価が終了した4品種は除く）
新開発食品 (4品目)	ポリフェノール茶、リプレS、トリグリティー、ミドルケア粉末スティック

- (2) 各専門調査会における審議結果についての報告
- 農薬専門調査会から報告された以下の案件について、神経毒性に関し確認を要する事項があることから、専門調査会において内容を確認することとなった

農薬専門調査会 (1品目)	イソキサフルトール
------------------	-----------

- (3) 食品健康影響評価
- 以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

添加物(1品目)	ケイ酸マグネシウム
農薬(1品目)	シフルメトフェン

(4) 食品安全モニターからの報告（平成21年11月分）について、11月中に報告された14件について事務局から報告

(5) 遺伝子組換え食品等専門調査会の担当委員である長尾委員から、遺伝子組換え食品に関して、海外の研究グループの研究結果についての情報提供があったため、事務局で情報を収集・整理した上で、既存の評価結果への影響の有無、また今後の対応について、遺伝子組換え食品等専門調査会に意見を求めることとなった

第318回 1月28日（木）

(1) 食品健康影響評価の要請

- ・以下の案件についてリスク管理機関から説明

農薬（4品目）	イミダクロプリド、イミノクタジン、シクロプロトリン、スピロジクロフェン
---------	-------------------------------------

(2) 各専門調査会における審議結果についての報告

- ・各専門調査会から報告された以下の案件について国民からの意見・情報の募集に着手することを決定

農薬専門調査会（1品目）	オキシフルオルフェン
--------------	------------

(3) 食品健康影響評価

- ・以下の案件について検討し、食品健康影響評価の結果をリスク管理機関に通知

農薬(2品目)	アゾキシストロビン、プロピリスルフロン
遺伝子組換え食品等(2品目)	①除草剤グリホサート耐性ワタGHB614系統と除草剤グルホシネート耐性ワタLLCotton25系統を掛け合わせた品種、 ②除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズ（DP-356043-5）

(4) 「食の安全ダイヤル」に寄せられた質問等（平成21年12月分）について事務局から報告

2. 食品安全委員会ワーキンググループ会合の開催

食品による窒息事故に関するワーキンググループ

第6回 1月13日（水）

- ・「評価書 食品による窒息事故（案）」に基づいて、食品（群）別一口あたり窒息事故頻度、食品健康影響評価等について議論を行った

3. 専門調査会の運営

(1) リスクコミュニケーション専門調査会

第48回 1月26日(火)

＜今後の食品安全委員会のリスクコミュニケーションの実施について＞

- ・平成22年度のリスクコミュニケーションの取組方針について、議論を行った
- ＜食品安全確保総合調査について＞

- ・平成22年度に取組むリスクコミュニケーション分野の実施課題案について、議論を行った

(2) 農薬専門調査会

第59回 幹事会 1月20日(水)

- ・「TCMTB」、「イマザピックアンモニウム塩」、「スピネトラム」及び「ピコリナフェン」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定
- ・スピノサドについて、動物用医薬品専門調査会における審議結果が報告され、評価書(案)を一部修正することとなった
- ・ピメトロジンについて、追加提出された資料をもって確認評価第二部会において審議することが報告された
- ・企業申請品目に係る食品健康影響評価の標準事務処理期間について報告された

第36回 総合評価第二部会 1月25日(月) ※非公開

- ・「エタボキサム」について調査審議し、継続審議となった

(3) 動物用医薬品専門調査会

第121回 1月27日(水)

- ・「鶏伝染性ファブリキウス嚢病(抗血清加)生ワクチン(バーサ・BDA)」、「豚アクチノバシラス・プルロニューモニエ(1・2・5型)感染症・豚丹毒混合(油性アジュバント加)不活化ワクチン(“京都微研”ピッグウィーン-EA)」及び「マイコプラズマ・ハイオニューモニエ感染症(カルボキシビニルポリマーアジュバント加)不活化ワクチン(レスピフェンドMH)」について調査審議し、評価書(案)を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

(4) 化学物質・汚染物質専門調査会

第9回 鉛ワーキンググループ 1月13日(水)

＜鉛の食品健康影響評価について＞

- ・事務局より、評価書(案)について概要を説明
- ・ハイリスクグループの範囲について再確認を行い、胎児、小児、妊婦、授乳する女性、妊娠可能な年齢層の女性とされた
- ・血中鉛濃度から摂取量への変換に関する知見は不十分であることから、評価書本文の食品健康影響評価については、有害影響を及ぼさない血中鉛濃度の設定までを結論とし、摂取量への変換については、「別紙」として試算を行い、参考として例示することとなった
- ・なお、「別紙」の内容については、小グループで再検討することとなった

第4回 汚染物質部会 1月27日（水）

<ヒ素について>

- ・事務局より、ヒ素の知見に関するポイント及び昨年10月に公表されたE F S Aの評価概要について説明後、食品健康影響評価の方向性について審議した結果、無機ヒ素については、E F S A等の海外評価機関に取り上げられている知見を中心に小人数のグループで精査した上で次回審議を行うこととなった
- ・また、形態ごとに、評価すべき対象物質、着目すべき有害影響等を検討していくこととなった

(5) 微生物・ウイルス専門調査会

第9回 1月15日（金）

<リスクプロファイル（鶏卵中のサルモネラ・エンテリティディス及び牛肉を主とする食肉中の腸管出血性大腸菌）の更新について>

- ・両リスクプロファイルの更新案を一部修正の上、再度審議を行うこととなった

<自ら評価優先3案件への今後の対応について>

- ・鶏卵中のサルモネラ・エンテリティディス及び牛肉を主とする食肉中の腸管出血性大腸菌のリスクプロファイル更新案の修正結果を踏まえ、再度審議を行うこととなった

<その他>

- ・薬剤耐性菌に関するワーキンググループの審議結果（牛及び豚に使用するフルオロキノロン系抗菌性物質製剤に係る薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価）が了承された

(6) 遺伝子組換え食品等専門調査会

第78回 1月18日（月）

- ・「除草剤グリホサート耐性ワタGHB614系統と除草剤グルホシネート耐性ワタLLCotton25系統を掛け合わせた品種」について調査審議し、評価書（案）を食品安全委員会に報告することを決定
- ・「*Aspergillus oryzae* MT2181株を利用して生産されたキシラナーゼ」について調査審議し、継続審議となった
- ・「除草剤グリホサート及びアセト乳酸合成酵素阻害剤耐性ダイズDP-356043-5（食品）」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定
- ・「高オレイン酸含有ダイズDP-305423-1（食品・飼料）」について調査審議し、指摘内容を確認の上、評価書（案）を了承することとなった

(7) 肥料・飼料等専門調査会

第35回 1月21日（木）

- ・「ツラスロマイシン」について調査審議し、評価書（案）を一部修正の上、食品安全委員会に報告することを決定

4. 意見交換会等の開催

(1) 意見交換会

ジュニア食品安全委員会in岩手

1月6日(水) <岩手県二戸市>

- ・岩手県との共催により開催
- ・食品安全委員会見上委員からの食品の安全性についてのレクチャー、食品安全に関するクイズ、意見交換を実施

サイエンスカフェ 第4話

1月26日(火) <東京都中央区>

- ・群馬県との共催により開催
- ・食品安全委員会小泉委員長からの30分程度の話提供の後、参加者の皆さんから、疑問や意見を自由に「コミュニケーションカード」に書いて出してもらい、その内容について意見交換を実施

食品のリスクとのつきあい方ー食中毒をテーマにー

1月29日(金) <奈良県奈良市>

- ・奈良県との共催により開催
- ・食品のリスクについて参加者と情報を共有するとともに、安全性についての理解を深め、食品に対する信頼の向上を図るため、奈良県立医科大学の今村知明教授による講演、食品安全委員会、消費者、食品事業者、行政等によるパネルディスカッションを実施

(2) 食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座(ファシリテーター型)

1月29日(金) <岩手県盛岡市>

- ・午前は、内閣府食品安全委員会事務局が制作した、リスク分析と食品安全委員会の役割について説明したDVD上映と、ファシリテーションの基礎知識に関する講義の後、参加者がファシリテーションの基本的なスキルのいくつか(傾聴など)について、実習を行った
- ・午後には、参加者がグループに分かれ、アイスブレイクをした後、ワークショップのいくつかの手法を体験

(3) 食品の安全性に関するリスクコミュニケーター育成講座(インタープリター型)

1月14日(木)~15日(金) <埼玉県戸田市>

1月21日(木)~22日(金) <長崎県長崎市>

1月27日(水)~28日(木) <和歌山県和歌山市>

- ・1日目は、講師が、食品安全委員会の概要、インタープリターに期待すること、リスクのとらえ方、リスク評価の実際(BSE)を中心に説明した後、受講者は、当委員会が用意したスライド資料をたたき台にして、有効な資料に仕上げるには何が必要かなどを討議を実施
- ・2日目は、講師が、当委員会が行っている食品のリスク評価(農薬)を説明した後、演習の一環として行われる小規模意見交換会「アフタヌーンカフェ」の効果的な進め方、設営準備の実際等を経験し、実際に、受講者が役割分担しながら、アフタヌーンカフェを開催

(4) 講師等派遣

- ・地方公共団体企画や各種団体企画の講演会等へ委員が講師として参加した

月日	講演会名	対応委員
1月19日	国立保健医療科学院食品衛生管理研修	見上委員
1月28日	東京都第15回食の安全都民フォーラム	長尾委員

- ・家庭科教員の教員免許状更新講習（1月11日 北海道教育大学）へ食品安全委員会委員（畑江委員）を派遣した